

地域子育て支援拠点研修事業〈秋田開催〉

地域に開かれた子育て支援拠点をみんなで作ろう

〈開催趣旨〉

平成 19 年度より、つどいの広場事業、地域子育て支援センター事業を統合し、児童館などのスペースも活用しながら、地域子育て支援拠点事業(ひろば型、センター型、児童館型)が新たに再編されました。そこで、行政とともに地域における子育て支援拠点間のネットワークを図りながら、地域子育て支援拠点の意義と役割を検証します。また、拠点スタッフ一人ひとりが日頃の活動を振り返り、見識を深め、スキルアップに寄与することを目的とします。

〈プログラム趣旨〉

秋田県では、これまで子育て支援センターを核にさまざまな子育て支援が行われてきました。今後は市民も主体的に関わることを重視し、地域子育て支援拠点事業の担い手が行政と協力しながら地域のネットワークを作っていくことが求められています。そこで、子育て支援拠点スタッフと行政や地域との関わりを学ぶとともに、子育て当事者の気持ちにどう寄り添いどう働きかけて親の力を引き出していくか、スタッフ同士のコミュニケーションをどう図るかなどのスキルアップについても、事例を聞きながら考えます。

子育て当事者も含め、地域のさまざまな分野や立場の人の力が発揮できる拠点について検討し、秋田でのこれからの地域子育て支援拠点事業の可能性を探ります。

〈開催概要〉

- 開催日時：平成 21 年 10 月 24 日（土）10：00～17：00
- 会場：秋田県生涯学習センター（秋田県秋田市山王中島町 1-1）
- 主催：財団法人こども未来財団・NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会
- 後援：厚生労働省・（社福）全国社会福祉協議会・秋田県・秋田市
- 協力：地域子育て支援拠点研修事業〈秋田開催〉実行委員会・NPO 法人メリーゴーランド

〈開会〉



総合司会者

お話と歌の「グループかぜ」主宰
谷京子さん



主催者挨拶

財団法人こども未来財団 研修事業部
池野周平さん



開催地挨拶

秋田県子育て支援課課長
鎌田恵子さん

プログラム1 基調報告

「地域子育て支援拠点事業の概要と展望」

厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課 少子化対策企画室室長

朝川知昭さん

地域子育て支援拠点のセンター型、ひろば型、児童館型それぞれの特徴をお話していただきました。児童福祉法に位置づけられた、法律に基づく事業であるとともに、保育園と同様に第2種社会福祉事業であることに、あらためて事業を運営する責任を感じました。親支援としての意義も有した子育て支援事業であること、また、関係する機関、事業との連携・協働が求められることなど、事業の位置づけを皆で共有することが出来ました。



プログラム2 ミニ講演&対談

「子育てしやすい秋田に…子育て支援拠点への期待」

ミニ講演：育児文化研究所所長 丹羽洋子さん



丹羽さん

地域子育て支援拠点の機能と役割について「人間とはつながり支えあって生きる生き物であり、1人では子育てする生き物ではない。」とお話されました。また、子育て支援のこれからについて ひろば型・支援センター型また、専門職・生活者(NPO)にとられず お互いがお互いを学びあい、親も子もスタッフもみんなの中で育っていった欲しいと拠点事業の展望についてのお話をされました。

対談：コーディネーター 育児文化研究所所長 丹羽洋子さん

対談者 NPO 法人やまがた育児サークルランド代表 野口比呂美さん

NPO 法人メリーゴーランド理事園長 佐々木久美子さん

ミニ講演の丹羽さんをコーディネーターに、東北で先駆けて拠点センターを実践してこられた 野口さん、秋田県で平成 20 年度に拠点センターを受託した佐々木さんの積極的な活動が紹介されました。

丹羽さんから「あーべの活動<高校生子育て体験事業>を体験した方で現在活動に参加してくださっている方はいらっしゃいますか？」との設問に野口さん「3年目を迎えました。現在ボランティアとして参加くださっています。」これを受け丹羽さん「高校生・おじいちゃん・おばあちゃんが、子育てを体験するのはとても良く次の世代へと命を考える事ができる。」とのお話をされ、「東北は東京より壁が高くないので、いろんなことにチャレンジできる。」と今後の活動を待ちの活動にならないようにとのご指摘がありました。



野口さん



佐々木さん

プログラム3 分科会

第1分科会 基礎編「教えて～！子育て支援拠点のい・ろ・は」

コーディネーター NPO 法人やまがた育児サークルランド代表 野口比呂美さん

事例報告 NPO 法人しらかわ市民活動支援会副理事長 樋口葉子さん

元横手子育て支援センター指導員 富田愛さん

野口さんは、「自戒をこめて、子育て広場が法的に整備されてきましたが、今後この広場がどうなっていくかは皆さん次第です」と話されました。形に縛られない、形に安住しない、現実に向き合う姿勢、また自由な発想と個性、積極性を忘れないNPOならではの活動が大切である事が広場を立ち上げた私たちも実感しました。樋口さんは、平成16年6月に「つどいの広場」の実施計画をたて、平成16年8月に第1回つどいの広場全国大会に参加して全国の現状を知り、私たちにも出来るのではと思い、稼働率が少ないマイタウン白川の和室を「つどいの広場」に利用できないかを行政に働きかけながら、「おひさまひろば」を平成17年7月にオープンするまでのいきさつを伺いました。今年9月まで横手市子育て支援センターで指導員として勤務された富田愛さんは、あるお母さんからの手紙によって、もう少しみんなが気軽にこれる場所がないかなと思い平成18年に子育て支援センターが児童館に移転するのをきっかけにして6月に「ママチャサロン」を開設。利用者が講師を勤める「わたし力 UP!講座」を始め「ママチャ祭り」「パパボランティア」など地域に根ざした活動がすばらしいと思いました。



樋口さん



ワークショップの様子



富田さん

第2分科会 実践編「支援って、な～に？」

話題提供 鹿角市地域子育て支援センター指導員 石坂千雪さん

進行・ファシリテーター NPO 法人秋田県北 NPO 支援センター

主任コーディネーター 袴田清枝さん



石坂さん

石坂さんからは、自身の育児経験から事業の立ち上げ、多岐にわたる活動を紹介していただきました。「親育ち」をサポートする為に、センターを利用する親の力を引き出しどのように実践に活かしているか、たくさんの活動内容を熱く語っていただきました。

鹿角市の取り組みを伺い、参加者はそれぞれの地域行政に子育て支援事業をもっと後押しして欲しいという思いを感じたのではないのでしょうか。

ワークショップ

袴田さん

たくさんの思いが

ワールドカフェ形式

書き込まれました



後半のワークショップはワールドカフェ形式で参加者全員が初めての経験。50分の短い時間、各テーマ(困難を抱えた親・子育て当事者・支援する側)の発表まで進めなかったものの机上の大きな用紙には隙間無く参加者の考えや思いがびっしり書き込まれ、自身のさらなるスキルアップを図りました。時間が経つにつれ作業にもなれ、会場内はとてにぎやかになりました。与えられた時間内(一人1分間)で話す難しさ、そして相手の話を聞く難しさは有りましたが、参加者の皆さんがとても生き生きとしていました。見事に仕切った袴田さんに拍手!

第3分科会 ネットワーク編「ネットワークで拠点事業をパワーアップ!」

～多様化する支援を効果的に展開するには～

話題提供・コーディネーター

NPO法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク代表理事 伊藤仟佐子さん

リレートーク

秋田市子ども未来センター主査 田中としみさん

秋田市泉地区民生児童委員協議会会長 富樫清弘さん

ママチャサロンサポーター (横手市) 奥山ひとみさん

キッズ・パーク(能代市) 山崎留美子さん

かたがみっこ元気ネット代表 (潟上市) 佐藤有加さん

つどいの広場ひよこ保育士(大館市) 虎谷淳子さん



伊藤さん



左から田中さん、富樫さん、奥山さん



左から山崎さん、佐藤さん、虎谷さん

伊藤さんより、仙台市子育てふれあいプラザのびすく仙台の概要及び活動報告、リレートーク者のネットワークの取り組み報告に続き質疑応答では、パパネットワークの難しさについて各登壇者より実践事項をうかがい最後に伊藤さんより「パパと子どもに何かをしてもらい、ママはのんびりタイム」は、ママ心を捉えママがパパを引っ張ってきてくれるとの強力なアドバイスを頂きました。また、行政がしてくれない、担当がしてくれないではなく、ネットワークのミクロの世界は点と点(個人と個人)の関わりなので、自分がしたいことの話聞いてくれる人を探すように努力をして欲しいとの富樫さんより提案がなされました。

プログラム4 全体会（分科会まとめ）

コーディネーター NPO 法人メリーゴーランド理事 園長 佐々木久美子さん

報告者

【第1分科会】NPO 法人やまがた育児サークルランド代表 野口比呂美さん

【第2分科会】NPO 法人秋田県北 NPO 支援センター 主任コーディネーター 袴田清枝さん

【第3分科会】NPO 法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク代表理事 伊藤仟佐子さん

アドバイザー 育児文化研究所所長 丹羽洋子さん



左から野口さん、袴田さん、伊藤さん



左から丹羽さん、佐々木さん

各分科会の発表では、参加できなかった分科会での様子や話し合われた内容を参加者全員で共有しました。2時間という短い時間でしたが、各コーディネーターの力量でそれぞれのテーマ毎に課題出しや解決策、提案に至るまで内容の充実した分科会であったようです。今回、秋田を始めて訪れた丹羽さんは、東北、秋田で頑張っている人たち自身が一つの資源であって、今後地域に根付いた活動が出来るようエールを送って下さいました。また、会の最後には総司会を務めて下さった谷京子さんから「ラヴ・ユー・フォーエバー」の朗読がプレゼントされ、感動のうちに閉会となりました。

